



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群



7号墳

5世紀前半に築かれた一辺24mの宗像地域には珍しい方墳です。墳丘上には玉砂利が敷かれ、コハクの原石や沖ノ島と共通する鉄斧が発見されています。



22号墳

前方部は開墾によって今は残っていませんが、大きな円墳に短い前方部が付いた形、上空から見た形から「帆立貝(ホタテガイ)式古墳」と呼ばれます。新原・奴山古墳群中で最大規模を誇る全長80m。古墳のまわりに幅10m程の周溝と周堤が巡っています。また墳丘に円筒埴輪が立っていました。



12号墳

6世紀前半に築かれた全長43mの前方後円墳です。古墳の周囲に幅5m程の平坦部があり、基壇と考えられています。



30号墳

6世紀中頃に築かれた全長54mの前方後円墳です。前方部の上面は畑により削られ平らになっていますが鍵穴形をしたきれいな平面形を残しています。

しん ばる ぬ やま 新原・奴山古墳群

平成29年7月に新原・奴山古墳群を含む「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は世界遺産に登録されました。



古墳キャラクター「ふんちゃん」

沖ノ島祭祀を担い、沖ノ島に宿る神に対する信仰を宗像三女神信仰へと発展させた古代豪族、宗像氏の墳墓群です。5世紀から6世紀にかけて当時の入海に面した台地上に、前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の計41基が現存しています。長期にわたる様々な規模や形態の古墳が集中して築かれていることが特徴で、台地上からは旧入海の田園とその向こうの玄界灘が見渡せ、海を意識してこの古墳が造られたことがわかります。

台地中心部には、前方後円墳や大型円墳が造られ、その周辺に中小の円墳が分布しています。前方後円墳はヤマト王権とのつながりの強い有力者の墓であることを示すことから、王権のもとで朝鮮半島への航海や沖ノ島での祭祀を担うことによって勢力を拡大させた古代豪族宗像氏の性格をよく表す古墳群として世界遺産に登録されました。

お問い合わせ

福津市役所 教育部文化財課 TEL.0940-43-8134

〒811-3293 福岡県福津市中央1-1-1



1号墳
 5世紀中頃に築かれた全長50mの前方後円墳。道路建設に伴う発掘調査後、前方部は削られた。石室から鍛冶具や木工具が出土する。石室そばに置かれた巨石は発掘調査で移動させた天井石。

24号墳
 6世紀前半に築かれた全長53.5mの前方後円墳。古墳のまわりに周溝と周堤が巡る。

22号墳
 新原・奴山古墳群中で最大規模を誇る全長80mの前方後円墳。古墳のまわりに周溝と周堤が巡る。墳丘に円筒埴輪が立っていた。

34～43号墳
 これらの円墳は直径15m以下の小古墳で6世紀に造られた。細長い尾根上に一列に並ぶように造られている。

12号墳
 6世紀前半に築かれた全長43mの前方後円墳。古墳の周囲に幅5m程の平坦部(基壇)をもつ。

7号墳
 5世紀前半に築かれた一辺24mの宗像地域には珍しい方墳。

30号墳
 6世紀中頃に築かれた全長54mの前方後円墳。前方部の上面は畑により削られ平らになっているが鍵穴形をしたきれいな平面形を残す。

21号墳
 5世紀前半に築かれた直径17mの円墳。墳丘上には古墳より800年後の鎌倉時代に作られた供養塔が立つ。

- 5世紀に造られた古墳
 - 6世紀前半に造られた古墳
 - 6世紀後半に造られた古墳
- ※数字は古墳番号

旧入り海